九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[044] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10227

出版情報：語文研究. 44/45, 1978-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

春日和男先生は今年四月一日付けで九州大学を定年退官なさいました。本学教官としての先生の御経歴その他は巻頭に示された通りですが、近影の御写真でもうかがわれる如く、先生は心身ともにいよいよお元気で、「定年退官」という言葉にもいささかそぐわぬものを覚えるのが本当の所です。上代語研究からはじめて訓点資料へ、更に説話文学へと発展してきた先生の御研究も、今後ますます大きく展開する事と拝察致す次第です。

ここに春日教授退官記念号を編んで、本年度九大国文学会の席上これを献じ奉る事により、学恩の万分の一にもお酬いし、あわせて先生の御健勝をお祈りしようと企画致しました。先生からたっての御意向もあり、儀礼的な辞は極力おさえて、比較的新しい受講者諸氏力一ぱいの論考を中心に編集しました。さきの還暦記念号が国語学特集であったに対し、この度は敢えて語学文学の別なく、先生の御薫陶を受ける所が多かった方々に寄稿をお願いした次第です。また春日先生からは特に、昨年度九大国文学会の御講演に基く玉稿を頂戴して、本記念号を飾らせて頂き、更に今井教授からは、教室を代表してお心のこもった献辞をお寄せ頂きました。

御多忙中それぞれに力作をおとどけ下さった執筆者の皆様に対し、謹んで深謝の意を表します。

この記念号には、当然御寄稿頂くべき方々の顔ぶれが漏れているかの感なしとしませんが、これは、本誌記念号と別途に『春日教授退官記念論集』の刊行が企画されており、その執筆者との重複を避けた為でございます。

なお春日教授退官記念行事としては、先般二月十八日午後一時半より本学法文系一〇一番教室で最終講義（題目「言語活動への開眼」）をお願いし、引き続き文学部会議室でパーティを催しましたが、何年ぶりという大雪の中を会員各位多数お集り頂き、大変な盛で会した。ひとえに先生の学徳の然らしむる所と、教室員一同大いに感激した次第です。

また本年秋には、前記『記念論集』（桜楓社刊）の出版祝賀会を開き、春日先生の御講演などもお願いしたく予定しておりますが、それらについては、何れ改めて御連絡致したく存じます。（奥村記）